

充実した夜間・休日検査体制の構築

◎武井 崇弘¹⁾、竹野 祐希¹⁾、高山 政幸¹⁾、中野 聡¹⁾
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院¹⁾

【はじめに】臨床検査技師の業務は多岐にわたり、様々な状況における対応が求められている。限られた人材で多くの要求に対応するためには業務の効率化や人材育成が重要な鍵となる。当検査室では新人職員の研修期間中に夜勤業務ができるよう業務検討プロジェクトチームを立ち上げ、各部署と連携をとり研修のサポートを行っているが、研修終了後のスタッフに対し知識の確認を行う体制が構築されていなかった。新人職員を対象とした研修だけではなく、検査室スタッフの基礎能力向上を目的として2019年から年1回、休日日勤・夜勤業務を行っているスタッフを対象に、業務の確認と知識の共有を目的にe-learningを活用した確認体制を構築した。

また、当院の休日日勤・夜勤業務は2～3名体制で行っていたが、COVID-19関連検査依頼の増加に伴い人員不足が懸念され、これらに対応するため休日日勤・夜勤体制の見直しを行った。その取り組みと成果を報告する。

【方法・取り組み】検査室スタッフ50名の中で休日日勤・夜勤業務を行っている37名を対象とした。各部門から選抜

されたプロジェクトメンバーが各分野の周知すべき項目について問題と解説を作成しe-learningを実施、分野ごとの結果とアンケートの集計をとりまとめた。

勤務体制についてはCOVID-19関連検査を含めた全ての検査提出時間の調査を実施し、人員不足が想定される時間帯を抽出した。

【結果】e-learningの受講率は100%であり、正解率が90%以下のものについて科内にて解説と周知を行い、50%以下のものについては勉強会を企画し実施した。

休日日勤・夜勤業務でCOVID-19関連検査の検査数が多い時間帯に人員をシフトするとともに、COVID-19抗原定量検査やRT-PCR実施者を増員することで休日日勤・夜勤帯でも遅延なく検査が可能となった。

【考察】定期的にスタッフの適正性の確認を行うことは必須であり、e-learningは有効な手段である。今後ともこの取り組みを継続し検査室スタッフの基礎能力を向上させていきたい。しかし、手技の確認について現状では、実施困難なため今後検討していく必要がある。 連絡先：0263-33-8600